

## [講演要旨]

# 1855年安政江戸地震の史料を読み直す

(株) 防災情報サービス 中村 操

(公財) 地震予知総合研究振興会 松浦 律子

### §1. はじめに

安政江戸地震は安政二年十月二日(1855/11/11)夜四ッ時(21:20 ごろ)に江戸直下を震源として発生した地震である。地震の規模は  $M7$  前後と考えられている。震源深さはいくつかの考え方があるが、やや深い地震であるということが、史料から読み取れる。

この地震の被害状況については、歴史地震(中村・松浦, 2011 等)で報告してきた。近年、新たな史料も増えさらに新しい知見も得られてきたので、再度史料を読み直し、震度推定を見直すことにした。ここでは史料ノイズの解釈も含め、その一部を紹介する。

### §2. 史料解釈の問題点

#### 2.1 記述の信憑性について

史料の多くは各人の目的や自分の感じたままに記述すること多いであろう。後の世の人々が自分たちの意図しないような使い方するとは、考えなかったであろう。まず地震の発生時刻の問題を再度見直した。

江戸地震の有感範囲の北限は青森町であった。「十月二日夜五ッ過地震」(青森, 柿崎日記)、「十月二日 晴 夜四時地震」(八戸, 遠山家日記)、「同日 晴天 今夜五ッ時地震」(三戸, 三戸給人日記)というように、五ッ時は四ッ時の勘違いであろうと考えた。従ってこれらの記述は江戸地震の有感記事であろうとしてきた。しかし、「(十月)二 水初て氷夜五ッ晴地震晴」(盛岡, 飢饉考)という記述を加えて再考すると、「五ッ時」と「四ッ時」の二つの地震があって、前者は八戸沖の地震ではないかと考えられる。八戸の「夜四時地震」は日記に書く際に間違えたのではないかと考えられる。事実盛岡に四ッ時の有感記事はないからである。

黒石, 弘前にも有感記事はなく, 十月十日に飛脚によって江戸地震を知ることになる。従って, 有感の北限は宮城県石巻ということになる。(図1.参照)

#### 2.2 関宿領(千葉県野田市関宿)の被害

関宿藩の史料は江戸藩邸の被害と他に関宿領の被害を記したものが残されている(関宿城博物館研究報告 16)。「二日大地震二而関宿御城圍堤大破二付御領分邑々方人足出勤被仰付之儀」というように大堤の修復の相談会をすることを告げた記録がある。また, 同藩の茨城県境町の利根川河岸にあった土蔵は「三ヶ所の内二棟者破損致吉棟者潰シ候様二罷成」という被害を受けている。この二つの記録から, 震度5以上のゆれがあったことが推定

できる。史料の多い埼玉県幸手市は野田市の西側に位置し, 共に揺れの強さが似ている。



図1. 十月二日夜五ッ時の地震有感記述は, 青森, 三戸, 盛岡にある。八戸は「四ッ時大地震」とあるが, 五ッ時の誤りと考えられる。(八戸市の略図に加筆)

#### 2.3 埼玉県久喜市新堀と幸手市平須賀の被害

新堀では畑の一部が「二三通りニ割裂テ、其口より荒砂并泥水夥敷吹出し平一面ニ押流れ、場所二より高低出来仕」とし, 耕作地が荒れてさらに居家が14戸傾いた。液状化が建物の破壊に影響したと記録している(埼玉県文書館紀要 19)。

平須賀の史料は居宅半潰3, 大破4, 土蔵大破4, 木小屋大破6そして寺の表・裏門大破, 塀一部大破で計18棟が被災, その他残らず震破。(同紀要)。

### §3. 火災

火災の調査結果を写した斉藤月岑の「安政見聞誌」に江戸の火災を描いた絵図が残されている。神田雉町(現在の神田司町)から8方向を描いた絵で, 「武江地動之記」よりリアルに描かれている。

地震後まもなく火災が50~60ヶ所から発生したと解説があるが, 実際は100ヶ所以上と考えられる。